



第4回アジア・太平洋水サミット (APWS) - 議長サマリー

この議長サマリーはアジア太平洋地域の質の高い成長に向けた明確な道筋を示し、熊本宣言の一部をなす。また、アジア太平洋地域の各国首脳が熊本宣言中の問いに応えるために行われた発表と意見交換の成果をまとめており、9つのテーマ別セッションと4つの統合セッションの成果の主要メッセージが含まれているものである。

1. 持続可能な社会の構築に向けて：水分野はSDG 6.1-6.6 や11.5. といったすべての水関連のSDGsを達成する必要がある。

- **ガバナンス**: 統合水資源管理に基づく流域全体の水管理を行い、健全な水循環を回復・維持するために、領域や異なるレベルのセクター間を超えて協働し、多様な気候、地理、社会経済的条件に合わせる。
- **ファイナンス**: 水分野への総投資額を大幅に増やすため、水分野への投資による直接的・間接的な便益を定量化し、金融機関や納税者に納得してもらい、投資家を惹きつけるために分析手法を開発・標準化することが必要である。
- **科学技術**: 測定できないものは改善できない。特に、越境情報共有は重要である。

2. 強靱な社会を目指して：パンデミックや災害、気候変動など突発的もしくは緩やかな混乱の発言に対して、より強靱で適応性のあるコロナ後の社会を構築するために、水は重要な役割を果たすことができ、また果たすべきである。

科学技術: 観測、モデリング、データ統合に焦点を当てたオープンサイエンス政策を加速しながら、健全な水循環を促進し、エンドツーエンドのアプローチをとりながら領域や異なるレベルのセクター間を超えて協働する。

3. 包摂的な社会に向けて：包摂的な社会は、SDGs達成のためだけでなく、社会経済成長のエンジンとして人間の多様な能力や才能をフル活用するためにも必要である。

- ジェンダー平等と社会的包摂をあらゆる機関や制度の中核的な目標とする。
- 技術、イノベーション、データ分野で若者が解決法を提供し専門性を発揮できるように後押しし、若者の有意義な参画 (Meaningful Youth Engagement: MYE) を奨励、着手、支援し、あらゆるレベルで若者-政府間パートナーシップを強化する。

4. 国連2023年水会議とその後に向けて：

- 水、気候変動、防災は国際的なプロセス、特に国連2023年水会議において重要なテーマとして議論されるべきである。
- 熊本水イニシアティブがアジア・太平洋地域内外のコミットメントの輪を広げていくことを期待する。